



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047-767-5030 植田 進 ☎047-487-9754
伊原 忠 ☎047-488-7207 飯川英樹 ☎080-1239-8132

ホームページへ▶

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>
共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第428号

2019年10月28日

発行

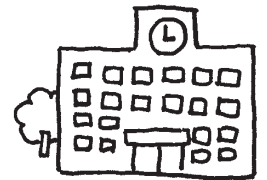
日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

奈良市では、統廃合に固執せず

10月8日文教経済常任委員会は、奈良市で行われている小中一貫教育の視察をしました。奈良市では無理やり統廃合をせず、ブロックごと（中学校区）に小、中学校が連携を取りながら学習を進める「連携型の小中一貫教育」が中心です。小学校と中学校は同じ施設になく、小学校と中学校、または小学校同士が連携を取りながら、奈良の世界遺産学習や地域学習をして誇らしげに語れる子どもを育てるという取り組みをしています。それはそれぞれの地域を大切にするための方策です。そのことにより地域の連携が深まり、行事への参加率が向上しています。

一方、八千代市では、施設一体型の「小中一貫校」を断念に追い込まれたにもかかわらず、住民が望んでもいないのに、今後とも住民に丁寧に説明する（市教育委員会）として、阿蘇・米本地域の3小学校の統廃合を強引に進めようとしています。



小中一貫校モデルの品川区では見直しへ

小中一貫校の全国モデルと言われた品川区では、10年たった今、制度の見直しと改革に着手しています。「義務教育学校」と普通の小学校、中学校の区別を廃止して、特別扱いにはしない。導入時に盛んに言っていた「中一ギャップ」、つまり、中学校での新たな環境になじめないというのには、科学的根拠がないことを認め、「小学6年生のリーダーシップ」を育てることや地域とのつながりを重視する方向に転換しています。

ところが八千代市では、教育委員会が阿蘇・米本地域の人に配布した報告書（10月吉日付け）で「小中一貫教育は自治体や学校現場での顕著な成果が明らかになってきました。小学校と中学校が別々の組織として設置されていたことがことに起因した様々な実施上の課題が解消される」との報告をしています。

阿蘇小学校の存続が地域の総意

阿蘇地域の人たちは、地域の子どもたちは地域で育てるという考え方が強く、阿蘇小学校がなくなることに危機感を持っています。「この地域で生きていこう」「この地域の人たちのために働こう」と思いながら育てている子どもたちがいるのです。

学校統廃合という市教委の方針は、一方的に地域に押し付けるものであり、地域のことについては、地域の人が決めるという住民自治という点からも逸脱していると言わざるを得ません。

日本共産党は、学校が地域コミュニティの中核の役割を担っており、地域を活性化するうえでもなくてはならない施設と考えています。これからも阿蘇小学校の存続のために地域の人たちと協同して取り組んでまいります。